



北海道がん専門相談員研修会開催

北海道大学病院では、平成24年2月25日(土)～26日(日)に、北海道がんセンターとの共催で「北海道がん専門相談員研修会」を開催しました。

がん相談に携わる相談員を対象とした研修会の企画は北海道で初めての試みだったのですが、全道の相談室から看護師3名ソーシャルワーカー9名の参加をいただき、無事に開催することができました。

研修会の講師には橋本久美子先生(聖路加国際病院 がん相談支援室看護師)をお招きしました。

1日目は「コミュニケーションスキル」をテーマとした講義を受け、3人ずつのグループに分かれて「相談者」「相談員」「観察者」の役割を経験しました。

2日目は「相談支援のプロセス」をテーマとした講義を受け、相談者が抱える問題について身体的・心理的・社会的側面から分析する作業をグループワークでおこないました。

「相談者を体験し、相談員の声掛けに安心した。こういう声掛けがあるのだと勉強になった」「グループワークを通して相談者の表出した課題の背景にある状況が理解できた」との感想がきかれ、研修会が少しでも有意義なものになってくれたのではないかと期待しています。

平成18年にがん対策基本法が成立し、がん医療の「均てん化」が目標として掲げられました。北海道大学病院も地域のがん診療連携拠点病院として、今後もいろいろな形で研修会を企画していきたいと考えています。皆さんの参加、ご協力を今後ともよろしくお願い致します。



在宅医療講演会開催

平成24年1月27日(金)に、北海道大学病院内において、在宅医療講演会「訪問診療と訪問看護～よりよい連携のために～」を開催しました。患者さんやご家族が安心して自宅で暮らすためには、病院と訪問診療・訪問看護間の連携が重要です。病院の医療者が、在宅医療の実際、連携上の課題について考える機会を作りたいと考え、この講演会を企画しました。講師は、札幌市中央区にある静明館診療所の矢崎一雄 院長、訪問看護ステーション春の岩永美里 所長のお二人です。矢崎先生からは、在宅医療

の概観を社会の動向と自らの体験を結び付けてお話いただき、アンケートでも「先生の経験や価値観を聞くことができてよかった」との感想が聞かれました。また岩永先生からは、病院医療者には複雑に感じる訪問看護制度についてわかりやすくご説明頂き、訪問看護に対する理解が深まりました。また、スムーズな在宅療養への移行は密な早期連携が大切であり、病院医療者が患者・家族のニーズを早期に把握する必要性を改めて感じました。当日は30名が参加し、多くの参加者から、今後は訪問診療・訪問看護を活用したいとの意見を頂きました。北海道大学病院地域医療連携福祉センターでは、引き続き在宅医療に関する研修会を行う予定です。ご興味のある方は、是非ご参加下さい。



